島根県立三刀屋高等学校

校長発 『本流』

【4月号③】令和５年４月８日

■入学式式辞

教室から見える緑色の桜御衣黄と本校のシンボルツリーであるユリノキの緑色の新芽が輝くうららかな春の日差しのもと、令和５年度島根県立三刀屋高等学校入学式ができますことは本校関係者一同大きな喜びです。

本来であれば、同じ式場に来賓の方々のご臨席を賜り、皆さんの入学を盛大に祝福するところですが、いまだ一定の制限を設けた形での入学式挙行となることをどうかご理解ください。ただ久しぶりに在校生全員揃って同じ式場・空間で新入生の皆さんを迎えることができますことを大変嬉しく感じています。

151 名の新入生の皆さん入学おめでとう。在校生、教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎します。多くの高校から本校を選択してくれたことに感謝します。その選択に全力で応えることを最初に約束します。

本校は、大正 13（1924）年に県内５番目の旧制中学校として開校し、令和６年度に開校 100 周年を迎える歴史と伝統を誇る学校です。皆さんはこの伝統ある三刀屋高校の生徒として、本日その第一歩を踏み出すわけです。

入学にあたり２つのことをお話しします。まず１つ目は、合言葉についてです。私は本校勤務４年目となりますが、今年度校長として新たに着任しました。そこで新たに三刀屋高校の合言葉として「**向き合う。その先に…**」を設定しました。**向き合う**と聞いて皆さんの頭に浮かぶものは何でしょうか？人？もの？それとも悩みや課題？「**向き合う**」の意味を辞書で調べてみると「互いに正面を向いて対する」とあります。「現実に**向き合う**」「課題に**向き合う**」あるいは「自分に**向き合う**」・・・そのことばのニュアンスとしては、あまり触れたくないものに触れる、見たくないものを見るという感じでしょうか。つまり**向き合う**ためには一定の“覚悟”や“つよさ”が必要といえます。からだの“つよさ”ではなくこころの“つよさ”ということです。

皆さんは進路選択の際に本校を選択し、今この場所にいるわけですが、これまでの人生でどんな選択をしてきましたか？順調なことばかりではなく、辛い選択をしたこともあったでしょう。ただ、その時々に悩みや課題に**向き合い**何らかの選択をしてきたことといます。高校入学というこの機会に、これまでの自分に少し**向き合って**みませんか？

そして、これまで経験してきた多くの分岐点で決断をしてきた自分を認めてあげてはどうでしょう。色々あったかも知れないけど今この場所にいるじゃないか。頑張ってきたね自分！**向き合うその先**には、きっと新しい世界、可能性が開けていると思います。

２つ目は対話することです。皆さんがその中心となるこれからの社会は「正解が１つではない社会」「多くの考え方を認め合う多様性の社会」です。正解のない問題について、他人と協働しながら最適解を見つけていく力が求められます。ＡＩ技術の発達により、最近では、質問項目を入力すると、まるで人間のように自然な対話ができる対話型人工知能 チャットＧＰＴ なども登場し、世界中で一億人を越える人々が利用しているともいいます。しかし、その内容が必ずしも正確ではなく問題点も指摘されるようになってきています。やはり、自分の考えを自分のことばで相手に伝える力が必要といえます。

対話することは、自分以外の誰かと話をすることだけではありません。本を読むことで先人たちの考えに思いを巡らすことも対話することです。さらに、自分自身と**向き合い**自分に問いかけることも対話することといえます。徳川家康を主人公とした大河ドラマ「どうする家康」では常に、難題を前にして“よわい”自分に**向き合い**ながら課題解決にあたっている姿が描かれています。

“よわい”自分をみせることができるのも一つの“つよさ”です。

「どうする自分」と問いかけながら悩みや課題に**向き合って**みてはどうですか？

校歌の一節にある「歴史をかえりみ新たにいま」そして「自身をかえりみ新たにいま」。皆さんの可能性は無限大です。皆さんが「**その先に…**」進んでいけるよう、私たち教職員は、努力を惜しみません。

保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。義務教育段階の親の立ち位置は、子どもに寄り添うことだったと思います。高校でも、基本は変わりませんが少しずつお子様の自立を促しながら過ごす３年間だと思います。お子様としっかり**向き合い**ながらも時には少し離れてみるという関わり方をお願いします

最後に新入生の皆さん、皆さんは、保護者にとっても学校・地域にとっても大事な宝物です。決して頑張りすぎないでください。“よわさ”を見せること、助けを求めることは決して恥ずかしいことではありません。教職員、保護者、地域の皆さん、そしてうしろにいる先輩。皆さんを応援してくれる誰かが、必ずいます。頑張りすぎるちょっと前に相談してみてください。

新入生の皆さんが、一日も早く、三高生として歩み始めることを期待して、式辞とします。

令和５年４月８日

島根県立三刀屋高等学校

校　長　本間　達也